



コミュニティ・コラボレーションセンター (CCC) は、大学の理念「違いを共に生きる」に込められた想いを受け継ぎ、「地域に根ざし、世界に開く」という姿勢で教育・支援を行っています。「文化」「世代」「地域」「社会」「環境」を舞台に、学生が地域の様々な人と幅広い活動に励み、自己を成長させる生きた学びが得られるようにサポートしています。以下、2013年度の活動の一部を報告します。

チャレンジファンド

CCCでは、学生の社会貢献活動を助成する「チャレンジファンド」を設けています。各学生グループが自ら企画した活動内容を公開コンペでプレゼンテーションし、地域のニーズに応える活動や、社会的に意義の高い活動に対して資金面での応援をしています。

今年度は、環境活動、青少年育成、国際協力、多文化、多世代交流の場づくり、震災支援、福祉貢献などの分野で活動する18団体が採択され、独自の活動を展開しています。



障がい者、職人、留学生など、地域に暮らす様々な方たちのお話を聞きながら、映像作品を一緒につくって上映し、多くの人々に地域の問題や一人ひとりの想いを知ってもらう活動をしています。



大学生に「フェアトレード」を広く知ってもらうための活動をしています。大学祭ではフェアトレードカフェを出展し、フェアトレードのコーヒーや紅茶の販売、チョコレート試食などを行い、大学生に限らず様々な世代の方にフェアトレードを楽しんで頂くことができました。

CCC開設科目

CCCでは、地域の社会貢献活動に学生が段階的にチャレンジできるよう、地域社会の人々と積極的に関わったり、また地域社会を取り巻く環境やその問題を見出したりと、様々な体験学習ができる授業を開講しています。

コミュニティ・サービスラーニング

- (I) まちづくり
(II) 日本語学習支援
(III) 食と環境
(IV) 公財あすと連携し一般の方に日本語ボランティアについて知ってもらう企画「ことばでできるボランティア」の企画運営を行いました。



学生の自主活動

【企画学生の声】
心理学部3年 小川紗也加さん
はじめは、子どもたちや高齢者の方々と接し方にとまどいましたが、回数を重ねるごとに打ち解けていきました。高齢者の方にも活動の意義を理解していただけており、今ではコミュニケーションの開催を楽しみにして下さる声も多く、やりがいを感じています。試行錯誤の連続ですが、仲間や後輩と楽しく取り組んでいます。

【連携団体の方の声】
白金児童館 山田知行様
「りんく」のみなさんは、子どもたち、お年寄りの両者からとても人気があります。児童館職員ではなかなかできない雰囲気づくりや企画の進行は、やはり大学生のみならずだから成せる業だと思えます。「りんく」の今後の活躍にとても期待しています。



【学生団体「りんく」の活動紹介】
今年度より、名古屋市白金児童館、名古屋市昭和区社会福祉協議会、愛知淑徳大学学生団体「りんく」の3団体が連携し、地域の顔がみえる関係づくり事業「コミュカフェ」を行っています。大学生、地域の高齢者と子どもたちが昔のあそびや季節の行事を通して交流を深め、また同時に白金のまちの様子について話し合っています。